

# 学校だより 彩雲燦燦

令和5年12月21日

文責：校長 原 佳織



大江能楽堂で鑑賞した「敦盛」



能面をつけて体験している様子

日本には、世界に誇れる伝統文化が数多くあります。たとえば、太宰府天満宮で聴こえる「越天楽（えてんらく）」を代表とする雅楽、国語の授業で学んだ平家物語を琵琶をかき鳴らしながら琵琶法師が語る平曲（へいきょく）、かぶき踊りから発展した歌舞伎など数えきれないほどあります。その伝統音楽の一つに「能」があります。能は「世界最古」といわれる音楽劇です。14世紀の室町時代に観阿弥と世阿弥によって大成され、650年をこえる年月の中、受け継いできた人々によって磨き上げてきた世界に誇れる美しい芸術です。その能を鑑賞するため、12月9日（土）2年生の修学旅行中、京都にある大江能楽堂を訪れました。その能楽堂は1908年（明治41年）に建てられてから110年以上の時が経っているからなのか、積み重ねられた歴史、凛とした空気感、それでいて柔らかなたたずまいを感じることができました。舞台の上に置かれたものではなく、正面の壁板に大きな松の絵が描かれ、その舞台と役者が出入りするところが「橋がかり」という廊下のようなものでつながっているだけ。目や耳から入る情報は、演者がつけている能面と装束、そして舞や所作と謡



（うたい）くらいでしょう。「能」は観客が想像して観たり聴いたりする演劇であり、観客側の想像力によって「見えないものが見える芸術でもある」という説明を聞きました。「一見、見えないものでも見ようとすれば見えてくる」「見えていることから見えない何かを感じたり分かたりする」。当たり前だと思って何気なく見ていた景色の中何かメッセージがあるかもしれない。友だちと交わす「おはよう」の挨拶に何かのサインがあるかもしれない。新しい年を迎えようとしている今、太宰府東中全体のさらなる「深い繋がり」のために「見えないものが見える」ように互いを思いやる気づき合いをしていきたいと思いました。

## 自分たちの「しんゆう」を目指して「ONE STEP」できた修学旅行



12月7日（木）から9日（土）に、2年生は奈良・京都を中心とした関西方面に修学旅行に行ってきました。修学旅行のスローガンは「しんゆう～深い絆を求めてもう ONE STEP～」。このスローガンに決まると聞き、1年生の自然教室でのスローガン「ONE STEP～協力しよう！110人の想いのために～」を思い出しました。1年生

のときからの想いである「もう一步進んでいこう」「もう一段上がっていこう」を2年生の修学旅行まで自分たちでつなげているのだと感じ、嬉しさがこみあげてきました。自分たちの想いを自分たちでつなげていくことは簡単なことではありません。2年生の大きな成長と3年生になるのだという自覚をたくさん感じる事ができた素晴らしい修学旅行でした。

## 今だからこそ、来年の飛躍に向けて人とのかかわり方を振り返ってみよう

令和5年がもうすぐ終わり、新しい年を迎えます。3年生は、自分の進路を自分の力で切り拓くため、学年全体で惜しみない努力をしています。2年生は、最高学年となって新しい太宰府東中をつくるため、そして1年生は、先輩となって学校を動かすための力を蓄えるため、それぞれ学年一丸となって頑張っています。毎日少しずつ成長しています。ただ、成長するときには苦しいと思うことがあります。ただどんな時であろうとも、決してやってはいけないことがあります。それは相手の心や体を傷つけること。自分では、コミュニケーションをとろうと思って発した言葉でも、気持ちを盛り上げようと思ったり周囲を明るくしようと思ったりした言葉でも、相手がいやだと感じれば、それはれっきとした「いじめ」です。いじめのつもりはなくても、からかいや冷やかしかは「いじめ」です。悪口や無視も「いじめ」です。相手の気持ちは見えなくとも見ようとしてください。温かい言葉や眼差し、さりげないやさしいしぐさなどかかわり方次第で、みんなが笑顔になるのです。そんな笑顔があふれる学校を令和6年も皆さんとともに目指します。

